
～クリスマスボールへの道～

バラック

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「クリスマスボールへの道」

【Nコード】

N9320G

【作者名】

バラック

【あらすじ】

これはアイシールド21を下敷きに書かれた物です。ちなみにアイシールド21とはアメフトが主題のマンガです。

第一話 悪魔との出会い（前書き）

初めまして、この小説が初めて書く小説とあってとても書くのに難しかったです。

まだまだ至らない点がありますがよろしく願います。

第一話 悪魔との出会い

「はあああああ…やっぱり帰ろうかなあ…僕なんかどうせ落ちてるに決まってる…」

○月○日、まだ肌寒い冬の面影が残る日の朝、小柄で細々とした体型の少年…いや、青年が私立泥門高等学校の校門前でびくびくと震えていた。

ただしこの震えは寒さからではない。この泥門高校に受かっている自信が無いからだ。

彼の名は小早川セナ。とても気弱で貧弱、最弱という文字がぴったりの。青年だ。そんな彼はまだ知らない。これから自分に降りかかる過酷な運命が待っていることを…

直ぐ様帰ろうと校門に背を向けた時…

「セナ…」。もう、いったい何処に行くの？ちゃんと合格してたか見てきたの？」

「ま、まもり姉ちゃん…」

小柄な彼の背中をバン、と叩くこの女性の名は姉崎まもり。この泥門高校の2年生だ。この女性は美人でかつスタイルの良い彼女には可憐、と言う文字がぴったりだ。そんな彼女はこの小柄な青年の幼なじみなのだ。先ほど

「まもり姉ちゃん」と、言ったが実際は血は繋がってはいない。昔からの幼なじみだ。

「いや…まだ見てない…」

「え？まだ見てなかったの？全く本当にセナったら…ほら私も一瞬に行つてあげるから。」と、半ば強引に手を引き人だかりへと歩いていく。

昔から彼女はこうだった。気弱で臆病な彼をまるでお母さんのよう

に引つ張つてきてくれた。そしてまたこのまもり姉ちゃんを頼ってしまう自分があるのだ…なさそう…。

「セナ、受験番号は？」

「うん…021番…」

と、小さく呟き顔を上げて自分の番号を探す。はあ、どうせ僕は落ちてるに決まってるんだ…。

…010…012…015…019…021…023…ん？021？…もう一度自分の受験番号を確認する。

小早川セナ、021番。そしてまた番号が張つてある看板を確認する。021。確かに自分の番号がある…。

「やった…やったあああ！！！！まもり姉ちゃん、番号があつたよ！！！！？」

泣きながら自分の隣に居る女性に話かける。

「本当！？…あつた！本当にあつたわよセナ！えらいわセナ！！」

まるで自分のことのように喜ぶ彼女を見てまた涙が溢れてくる。と、すかさずハンカチを渡す姉崎。本当にお母さんのようだ…。

「ありがと、まもり姉ちゃん…」

そしてそのハンカチで涙を吹き礼を述べる。

「そっか、セナが後輩になるのか…小学校以来だっけ？」そう、彼女の後輩になるのは小学校からだ。小学校の頃は同級生達に苛められては彼女に助けってもらっていた。そして再び彼女の後輩になることが出来たのだ…。

と、感動に浸っている間もなく…

「ねえ、幼なじみの美女と登下校出来てうれしい？」

と、わき腹を脇でつつく彼女は笑っているがやられている側は少し苦笑いだ。女性の力でそれほどまでに痛がるというのはそれほどまでに虚弱だと言ったことが見てとれる。

「でも良かった…おめでとうせ…」

不意に彼女の目から滴がこぼれ落ちる。

「あれ…？まもり姉ちゃん泣いて…」

と、電話が通じた瞬間携帯を取り上げられ猛スピードで逃げていく金髪の先輩と鈍足でその後を追う栗頭の先輩。

そして人気の無くなった所で悪魔は再び笑いだした。

「ケケケ、電話番号GET!!!」

すると猛スピードで複数の電話を使いたくさんの電話番号を打つ。すると…

「特急寿司！」

「ピザクイック！」

「中華配達屋！」

「スピード弁当！」

そう、彼が掛けたのは出前を取ることが出来る店全般だ。何故そんなことをするかというと…

「「「「 お客様の電話番号は?」「「「「

「059 ○%#& !!!」

当然相手側は電話番号を聞いてくる。そして先ほど手に入れた電話番号を言つと…?

「新規のお客様…」

「新規の…」

「ご登録はあります…」

「小早川様ですね?いつも有り難うございます!ご住所の確認を!

雨太市本町2 15 00…」

「名前と住所GET!!!」

そう、彼は電話番号を入手した相手の名前と住所を手に入れたかったのだ。

「なんと恐ろしい程の手際よさ…」

と、栗頭の先輩が呟く…。

「おい、次だ!!!早くしろ糞デブ!!!」

「う、うん……!!」

そしてまた胴上げをされる新入生……彼らは一体何者なのか……？

そしてこの巨漢の先輩と金髪の先輩の二人により小早川セナの人生は大きく変えられることになるのだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9320g/>

～クリスマスボールへの道～

2010年10月20日18時50分発行